

令和5年度 練馬区立石神井西中学校経営計画

校長 井上貴雅

1 練馬区教育・子育て大綱【教育分野目標】

「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備える子どもたちの育成」

【取組の視点】

視点1：教育の質の向上

視点2：家庭や地域と連携した教育の推進

視点3：支援が必要な子どもたちへの取組の充実

2 校訓 「叡智 健康 自治 共生」

3 学校教育目標

社会の中で豊かに生きるために、学び、自立しながら周囲と協働する人材を育成することを目指し次の目標を掲げる。

- ① 仕事と勉強にうち込み、実行力のある人
- ② 健康で自主性に富み、規律ある生活を送る人
- ③ 自由と責任を重んじ、見通しを持って行動する人
- ④ 自他を大切にし、建設的な意見を述べる人

4 目指す学校像

- ・教職員、保護者及び地域が一体となり、生徒の自己実現を達成させる学校
- ・一人1台端末を効果的に活用し、確かな学力を身に付けさせる学校
- ・挨拶や礼儀が励行され、思いやりにあふれた豊かな心を育む学校
- ・コロナ禍を十分に踏まえた教育活動に、積極的に取り組む活気あふれる学校
- ・生徒一人一人の居場所があり、楽しく登校できる学校
- ・地域と連携しながら教育課題の解決を図るなど、地域とともに歩む学校

5 目指す生徒像・目指す教職員像

【目指す生徒像】

- ・自らすすんで学ぶ意欲をもち続ける生徒
- ・他人を思いやり、豊かな心をもつ生徒
- ・よく考え、主体的に判断し、行動する生徒
- ・心身ともに健康で体力のある生徒
- ・学校と地域に誇りと愛着をもつ生徒

【目指す教職員像】

- ・生徒に対する愛情があり、一人一人に真剣に向き合う教職員
- ・生徒の良さや個性を的確に引き出せる教職員
- ・思いやりと誠実さがあり、人権感覚を磨き続ける教職員
- ・向上心や実践力があり、学び続ける教職員

6 目指す学校像を達成するための中期的目標と方策及び教職員に必要な能力

【目標1】 小中一貫教育の一層の充実

○方策

石神井西小学校、立野小学校、関町小学校と連携し、育成したい生徒像の実現を図る。特に健全育成に係るいじめの未然防止や解消、不登校児童・生徒の出現防止等について、具体的な手だての共有を図る。また、学習カリキュラムにおいても連携を図り、小中の接続を一層推進する。

○教職員に必要な能力

小学校の生活指導の実態を把握して児童理解を深め、小中の円滑な接続のための手だてを講じるなど小中一貫教育の充実を踏まえた指導をする能力。

【目標2】 「通いたい・通わせたい」と思う地域に根付いた学校

○方策

教育に情熱を注ぐ教職員、充実した設備、活気あふれる学校行事等、本校の長所を一層伸ばすとともに、広報活動を充実させ、学校の情報を積極的に発信する。

○教職員に必要な能力

各種広報活動の大切さを理解し、入学から卒業までの本校の指導上の強みについて、小学生、保護者や地域に分かりやすく説明する能力。

7 令和5年度の重点取組、方策及び教職員に必要な能力

(1) 学習指導

【重点取組1】

効果的にICTを活用することで、「生きる力」を身に付けるための課題発見・問題解決を中心とした「習得した知識・技能を活用する21世紀型授業」を一層推進する。

○方策

一人1台端末を効果的に活用し、個に応じた指導を全教科ですすめる。

○教職員に必要な能力

一人1台端末を用いて展開を工夫した授業力、的確に各観点の能力を判断する問題作成能力。

【重点取組2】

意欲的に学習したり、体力の向上を目指したりする姿勢を醸成する。

○方策

学習や体力向上の個人目標等を立てさせ、達成度を評価することで意欲的に学習する態度を養う。

○教職員に必要な能力

意欲的に学習や体力向上に取り組む授業計画を立案する能力。

【重点取組3】

各教科において各種調査や定期考査等の結果を十分分析し、授業形態を工夫することと、思考力・判断力・表現力が伸びたと実感できる学習指導を行う。

○方策

各種調査の結果の授業での還元方法について、共通理解する研修を実施する。

○教職員に必要な能力

試験の結果を分析する能力、集団の実態に合った授業を構築する能力。

(2) 生活指導・進路指導

【重点取組1】

自己実現に向け、主体的に生き方を考え進路選択・決定ができる生徒を育てる。

○方策

「キャリア・パスポート」の一層の活用を通して自らの生き方を考えさせる活動を行う。

○教職員に必要な能力

多様な生き方に共感でき、キャリア教育を推進できる能力。

【重点取組2】

思いやりの心を持ち、共に健康な生活を送ろうとする生徒を育成する。

○方策

全教育活動を、道徳を要として行うとともに、SCと連携して相談活動を充実させる。

○教職員に必要な能力

生徒の些細なシグナルをキャッチし、適切な相談活動を行う能力。

(3) 特別活動

【重点取組】

成功体験を数多く経験することで自尊感情や自己有用感を高め、コミュニケーション能力や社会に適應できる能力を育む。

○方策

コロナ禍を十分に踏まえ、運動会、合唱コンクール、イングリッシュ・キャンプ、スキー教室、学年・学級の校外学習及び部活動等、「自分は貢献した」と実感する活動を、全教育活動で行う。

○教職員に必要な能力

集団活動の中でも一人一人に配慮して、社会性や人間性を育む言動を具体的に示し、生徒に気付かせることができる能力。

(4) 学校運営

【重点取組1】

教職員一人一人の人権感覚を高める取組みを充実させる。

○方策

体罰に関わる過去の事例を研修等から学び、教職員の人権感覚を鋭くする。

○教職員に必要な能力

感情を優先させず、冷静に生徒に対する指導を行うことができる能力。

【重点取組2】

特別な支援を要する生徒への対応を確実に推進する教育を行う。

○方策

特別な支援を要する生徒への合理的配慮や教育効果の高い方法を学ぶ研修を実施する。

○教職員に必要な能力

様々な課題のある生徒へ対応を学び、すぐに実践に生かせる能力。

【重点取組3】

地域との連携の充実に資する人材を積極的に活用し、地域と共に歩む開かれた学校を推進する。

○方策

職場体験をはじめ、地域とともに実施する活動や取組みを一層推進する。

○教職員に必要な能力

外部人材を積極的に活用し、地域とともに歩む教育を推進できる能力。

8 働き方改革を一層推進することで職員の勤務時間縮減や休暇取得促進し、全職員のライフ・ワーク・バランスを実現

(1) 職員間のコミュニケーションや一人1台端末の効果的な活用により、業務遂行の合理化・効率化を図る。

(2) 年休取得や育児休暇取得（特に男性職員）の推進、ならびに夏休5日の計画的で確実な取得を実現する。

(3) 職務のDX化を図った上で業務削減に取り組み、全ての職員にとって心身ともに安心・安全な職場を実現する。